

第2回 鈴鹿市学校給食費検討会議 議事概要

日 時：令和6年11月5日（火）10：00～11：00

場 所：鈴鹿市役所本館 11階 教育委員会室

出席委員：三浦 洋子（白子中学校長）

市川 善浩（長太小学校長）

中野 あけみ（飯野幼稚園長）

田畑 優香（第二学校給食センター栄養教諭）※代理出席

吉田 幸恵（鈴鹿市PTA連合会）※代理出席

江崎 有（鈴鹿市PTA連合会）

事務局：教育総務課長、給食GL、給食経理GL、学校給食センター所長、
第二学校給食センター所長、給食G職員1名

傍 聴：なし

内 容：下記のとおり

【開会】

教育総務課長のあいさつ

委員及び事務局の紹介

（事務局）

議事に移る。前回は7月1日に第1回鈴鹿市学校給食費検討会議を開催したが、その際は最近の消費者物価指数の上昇率や、実際の食材見積額の比較などを説明し、それらに基づいた給食費の適正額を算出し、説明を行った。提案した額は、幼稚園・小学校が4,900円/月、中学校が5,600円/月であった。その後、内部の会議で話し合いを行った結果、それぞれもう少し額を抑える方向になったことから、本日の会議を開催し、意見聴取を行うこととなった。

経緯及び今後の給食費の案について、資料に基づき説明させていただく。

（1）給食費の現状について

本市の現在の給食費はH30年度に改定した額で、その後7年間改定を行っていない。しかしながら、昨今の物価上昇の影響で食材費は上昇している。幼稚園・小学校及び中学校それぞれでR5年度以降は食材費が給食費を上回っているが、その差額は公費にて負担している状況である。

そこで、来年度には給食費の改定が必要と考えており、改定額の案を、第1回会議では幼稚園・小学校が4,900円/月、中学校が5,600円/月と提案し、了承を得た。その後、内部会議にて調整を重ねた結果、改定額の案を4,800円/月、5,400円/月に抑えることとなった。

(2) 今後の給食費の額及び負担額について

第1回会議の提案額から減額することとなった大きな理由は、給食費の負担は学校給食法第11条及び同法施行令第2条に規定されているとおりの保護者の負担とすることから、急激な給食費の値上がりは防ぐべきという考えによるためである。額を抑える方法としては、食材の価格の上下を的確に把握し、季節毎になるべく安価な食材を取り入れるように、献立の立て方の工夫や調達の努力を現行より一層行うことで食材費を抑える方針とする。ただし、改定年度の途中に予想を上回るような物価上昇があった場合は、年度内であっても再度改定を行う可能性もあるという旨を明記させていただいた。

説明は以上である。質問や意見など聞かせていただきたい。

(委員 (中学校長))

額を下げるための方法で、献立の立て方の工夫を行うことについて、どの時期に食材が安く買えるだろうなどといった予測や見通しの情報はどのように収集するのか。献立は実際に提供する時期よりかなり前に決定しているのではないか。

(事務局)

鈴鹿農協を主とした取引先の事業者から定期的に情報収集を行い、野菜の生育状況や加工品の製造状況などの状況把握を行っている。その内容を、現行より一層、献立の立案時に反映させる方針である。購入直前に価格が高騰してきた場合には、高騰した商品の購入量を減らし、他の商品の購入量を増やすなど、予定した献立の中で使用する野菜の割合を微調整して額を抑える努力を行っていく方針である。

(委員 (PTA小学校))

献立検討会議にて、献立の立て方等は現行でも工夫してもらっていると感じている。献立の立て方を工夫して額を抑えるという方針は、保護者としては子どもたちが食べる1食の量やエネルギー、楽しみにしている献立などが少なくなってしまうのではないかという点が気になるがいかがか。

(委員 (栄養教諭))

献立の立て方の工夫については、量やエネルギー、栄養価に関しては、減ることがないようにしているので安心していただきたい。

ただ、単純に「昼食」ではなく「学校給食」の献立であるため、単に栄養価等の数字を維持すればよいという問題ではない。季節のものや行事に合わせた食事など、教育活動の一環として給食を提供するにあたって、高騰していてもどうしても外すことができない食材もあり、工夫にも限界があるということは額を設定する際には知ってほしい。

また、せっかくの機会なので、保護者の方々の目線からは給食にどんな工夫を期待

しているか聞きたい。

(委員 (PTA小学校))

たくさんの種類の食材を使用して、日々偏らないような工夫をしてもらっていることや、ご当地メニュー等のように、子どもたちが喜ぶような特別な献立があることを保護者としてとても良いと思う。そういった献立は減ってしまわないようにしたいと考える。

(委員 (栄養教諭))

子どもたちが楽しみにしている献立や人気の献立はそのまま残す前提で考えている。

ただ、繰り返しになるが、肉の種類の変更や、価格が高騰している野菜の使用量を減らし、比較的安定した価格で購入できる食材を多く使用する方法は、かなり前から行っているのですが、さらに額を抑える方法とするには限界に近いと感じている。

(事務局)

献立を工夫することで額を抑えると説明したが、その結果、量や栄養価が減るようなことはあってはならない。第1回会議の提案額より額を抑えることになったのは、保護者の方々に負担いただく給食費の額が急激に上昇することは避けるべきという考えが大きな要因である。人によって考え方は違うので難しいところではあるが、給食費を改定する際の値上げ幅について、特に保護者の方々はどのように感じているか意見を聞かせていただきたい。

(委員 (PTA中学校))

まず、給食が提供されるということ自体がとても助かっている。給食の代わりに毎日子どもに弁当を用意しなければならないことになったらとても困るし、弁当を作る手間や食材費を考えたら、給食費が上がることは構わないと感じている。値上げ幅についても、昨今の物価状況を考慮してもう少し上げて納得できると感じている。保護者全員が自身と同じ考えではないとは思いますが、多くの保護者は同じような意見を持っているのではないかと思う。

(事務局)

来年度、まずは幼稚園・小学校が4,800円/月、中学校が5,400円/月で食材調達を開始する予定としているが、今後は必要に応じて毎年くらいの短い間隔で給食費改定の検討をする必要性を感じている。

(委員 (中学校長))

栄養教諭は現行でもかなりの工夫をしており、事務局の提案額に納めることは限界

に近いと言っている。自身は毎日中学校の給食を検食しているが、副菜2品に同じ野菜を使用している日があるなど、調達に苦勞していることが伺える。給食費は、払う額が安い方が当然うれしいと思うが、必要な栄養素を摂取するために物価の情勢とともにそれ相当の額になることは納得ができるはずである。今後は、短い間隔で定期的に見直しを検討する方が、数年に一度急激に額が上がるよりは良い印象を持つと思うし、その方が社会情勢とも合致するので現実的だと考える。

(委員 (幼稚園長))

他市町の職員と給食の話をする機会があるが、他市の様子と比較すると鈴鹿市の給食は具材も多く、量的にも質的にも裕福な様子と感じる。味付けも子ども向けに配慮されており、子どもたちが給食を好きになっていく様子を目の当たりにしている。おいしく食べられるような献立と味付けの工夫をしてくれているから子どもたちも野菜を好きになっている。この現状が維持できるのであれば、量や質としては十分であり、問題ないと自身は考える。

(委員 (栄養教諭))

現在の水準は維持できるように精一杯努める。給食費が上がることで、高価な食材を使った給食になるのではと思われる保護者もいるかもしれないが、今回の額改定でその期待に応えることは難しそうだということは御理解いただきたい。安価な食材でもおいしい給食を提供できるように工夫を重ねたい。

(委員 (小学校校長))

他市から転勤してくる職員が、鈴鹿市の給食はおいしいという声をよく聞く。他の委員も言われたように、短い期間で額について検討することに賛成だ。もし、物価が下落する情勢になった場合は給食費も下がるということになるのか。

(事務局)

物価が下がる程度にもよる。給食費を下げるにはそれなりの物価情勢にならなければ難しいと思われる。

他に何か意見等はあるか。

(委員)

なし

(事務局)

幼稚園・小学校については4,800円/月、中学校については5,400円/月の提案額については、了承いただくことでよろしいか。

(委員)

(それぞれが) 同意

(事務局)

なお、先日、国政選挙が終わったが、各政党の公約で給食費無償化という内容が多く掲げられていた。国の交付金等の話が出る可能性もあるが、その場合、どれだけの額を給食費に充当することができるかによるが、保護者負担額が先ほどの額を超えることにならない限りは年度内の会議は開催しない予定としているが、よろしいか。

(委員)

(それぞれが) 同意

(事務局)

それでは、以上で本日の議事はすべて終了となる。委員の皆様、様々な意見をいただきありがとうございました。

続いて、事項書4のその他に移る。

議事の中でも話にあったが、この会議の開催について、これまで必要な都度開催とされていたが、今後は毎年1回以上開催することとし、給食費の額に係る意見聴取を行う予定とする。なお、委員は献立検討会議の委員から選任する。

それでは、これをもちまして、第2回給食費検討会議を終了する。

【閉会】